

1. 文章構成・マインドのカテゴリ

「どのような姿勢で、どう組み立てて書くか」という、執筆の土台となるポイントです。

- **サンドイッチ法の徹底**

- 【ポジティブ（褒め） → 課題・トラブル（事実） → 解決・前向きな結び】の順で構成し、読後感を良くしているか。

- **プレップ法の徹底**

- 【 P：ポイント（要点） → R：理由や状況 → P：再び要点】の順で構成し、読後感を良くしているか。

- **「できなかったこと」で終わらせない**

- 課題を書く場合は、必ず「施設側がどう対応したか」「次への見守り」をセットで記載し、不安だけで終わらせない工夫があるか。

- **子どもの「悪意」にしない**

- トラブルの際、「意地悪をした」ではなく「表現方法が分からなかった」「焦ってしまった」など、行動の背景にある子どもの心理を代弁できているか。

- **寄り添いの意識**

- 「報告してあげる」という上から目線ではなく、一緒に育ちを支える伴走者としての温かい眼差しや共感が含まれているか。

2. 表現・言葉選びのカテゴリ

「保護者が読んだときにどう受け止めるか」に配慮した、文章表現のポイントです。

- **専門用語・業界用語の排除**

- 「他害」「多動」「ADL」「不適切行動」「療育」などの言葉を避け、日常的な優しい言葉に噛み砕いているか。

- **主観（感情・解釈）と事実の分離**

- 「わがままを言った（主観）」ではなく、『まだ遊びたい』と座り込んだ（事実）」のように、誰が見ても同じ状況が浮かぶ言葉を選んでいるか。

- **否定語の肯定語化（リフレーミング）**

- 「飽きっぽい」→「好奇心旺盛で様々なものに興味を示す」、「頑固」→「自分の意志をしっかり持っている」など、前向きな言葉に言い換えられているか。

- **感情的・断定的な表現の回避**

- 「～で困りました」「絶対に～です」ではなく、「～という姿が見られました」と客観的に

記述しているか。

3. 情報の具体性・客観性のカテゴリ

「家庭や園に状況が正確に伝わるか」という、情報としての質を高めるポイントです。

- **数字を用いた定量的（具体的）な記述**
 - 「いつもより長く」ではなく「10 分間」、「たくさん」ではなく「3 回」など、数字を使って具体化しているか。
- **スモールステップ（プロセス）の評価**
 - 「完成した・完璧にできた」という結果だけでなく、「挑戦しようとした」「5 分間席につけた」という過程の進歩を捉えているか。
- **個別支援計画（目標）との連動**
 - その子の現在の目標（例：意思表示、切り替えなど）に対して、今日どんな変化やアプローチがあったかが盛り込まれているか。
- **「その子ならではの」エピソードの抽出**
 - 「今日は工作をしました」という全体の活動報告だけでなく、「その時、本人がどう動き、どんな表情をしたか」という個人のドラマが 1 つ以上あるか。

4. 連携・実用性のカテゴリ

「家庭や保育園・学校での生活にどう生きるか」という、発展性のポイントです。

- **「再現性」のある工夫の共有（いわゆる「支援」）**
 - 「スタッフがこうサポートしたら成功した（例：袋越しに触る、絵カードを見せる）」という、家や園でも真似できる具体的なヒントが書かれているか。
- **家庭へのねぎらいと応援**
 - 「お家での〇〇の成果ですね」「いつもお疲れ様です」など、日頃の保護者の関わりを肯定し、労う視点があるか。
- **明快でスッキリした文章（可読性）**
 - 一文が長すぎず（目安として 50 文字程度）、適度に改行や箇条書き、カギカッコ（「」）が使われていて、忙しい保護者が短時間でサッと読めるか。